令和６年度　学校自己評価（中間評価） 前期の成果と課題

25長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による中間評価　A:十分　B:概ね十分　C:やや不十分　D:不十分　**回答数:73**

評価項目		評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価 A	職員評価 B	職員評価 C	職員評価 D	指標
1	学校づくり	新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育およびSSH先導的改革型Ⅱ期のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。	・新規SSH科目：STEAM探究、SSHチャレンジ、信大STEAM連携の運営をカリキュラムデザイン係とSSH係で連携して運営した。学年をまたいで不定期に進展していく3つのカリキュラムに関して、受講生徒の進展状況を把握し、単位認定までを管理する仕組みを構築した。（カリキュラムデザイン係）	文理融合型のSTEAM教育の充実を図るために、各教科に協力を依頼し、多様な学びを深めることができるようなカリキュラムを提案していく。（カリキュラムデザイン係）	23	43	5	0	79.1
			長野サイエンスコンソーシアム（NSC）事務局として学びの改革支援課と協力してオンラインミーティングを行い、加盟校の探究活動に関する困難点等を共有した。10月５日にNSC校及び県外SSH校から参加グループをつのり課題研究研修会を行う予定で、準備を整えた。（カリキュラムデザイン係）	成果普及に向けたネットワーク構築のために、生徒間の探究的な学びの機会だけでなく、指導者の指導力育成や域外における指導者同士の交流の充実を目指す。（カリキュラムデザイン係）					
			6月の運営指導委員会後に大学教授等を多く含む運営指導委員の先生方による2年理数科研究の計画相談会を新設した。今年度から採用されたSSHコーディネーターの信州大学工学部教授　山本先生を介して、信州大学工学部の研究室から課題研究グループが必要とする機材を借用するなど、大学研究室との連携を深めた。（カリキュラムデザイン係）	信州版評価法の妥当性や信頼性を検証するために、各校在籍のコーディネーターを介してSSH連携校でのアンケート実施を目指したい。（カリキュラムデザイン係）					
2	キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	夏期休業中には各教科、個人のレベルに応じた補習を7日間実施した。ほぼ全員が補習に参加し、意欲的に取り組む様子が見られた。（高3）	9月からの朝・放課後・土曜補習への参加や1棟での自主学習等を通じ、集団として受験に取り組んでいくよう指導する。（高3）	24	41	7	0	79.8
			「キャリア講演会」「屋代ミニ大学」では分野別にそれぞれ7人の講師を招いて模擬講義を行い、生徒の進路希望に添うように実行できた。（高2）	学校行事や夏季休業中のオープンキャンパスを通して生徒は自分の進路について考えることができた。自分の進路を考えた上で科目選択が行えるように面談等を通して指導していく。また、自分の進路実現に向けて学習に取り組むよう促す必要がある。（高2）					
			文理それぞれの進路講演会を実施。社会で活躍する本校OBの講演を聴き、キャリア形成に対する意識を深めた。（高1）	文理選択の提示方法は時期・方法ともに検討課題である。9月末までに学部や学科、受験科目を調べる機会を設ける。（高1）					
			夏休みのジョブシャドウイング、6月と9月のキャリア講演会を実施することで進路を考える機会を提供できた。また、その経験が学習への意欲を高める結果につながった。（高1）	職業や社会人としての在り方を意識してキャリア教育を進めるための方法を検討。キャリアを意識した学部学科理解を深める。（高1）					
			学年行事「千曲市地域探索（1年）」「校外課題探究学習（2年）」「卒業探究学習（3年）」を実施した。（中学）	これまでの学習を系統立てながら、体験的な学習の幅を広げていきたい。（中学）					
			BYODの実施により、中学3学年の生徒が個人の端末を学習に使用するようになったことで、学習の効率化と高校への連携を進めることができた。（中学）	端末を生かして学習を深化させると共に、個人端末の管理や情報モラルについても引き続き指導していく。（中学）					
		進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	節目節目で学年集会(4月、6月、8月の3回実施)を開いてキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。また、前期は学年通信を15回発行して、必要な情報を届けている。（高3）	模試、共通テスト、個別試験、推薦に関する情報を更にきめ細かく発信していく。（高3）	23	43	6	0	79.8
			学年通信・進路だより・学級PTA・保護者説明会・学年集会等を通じて学校行事、進路・学習に関わる情報の提供ができた。（全学年）	更に情報を充実させ、生徒・保護者・教職員の三者での情報の共有・理解を深めたい。（全学年）					
			学年通信、学年PTAを通してキャリア形成に関する情報を発信した。また、全校生徒と全学年保護者を対象に「先輩の話を聞く会」を実施した。（中学）	生徒・保護者に対して進路情報を適切に発信するとともに、生徒が将来の自分について考える場を積極的に設けていきたい。（中学 ）					
			保護者説明会を開催し、進路選択について説明を行った。（高1）						

つづく

次頁へつづく

評価項目		評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標
					A	B	C	D	
2	キャリア教育	全教科にわたる総合的学力を養成し、国公立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し目標を下げないように指導している。(高3)	模試の結果をふまえつつ、あきらめずに最後まで頑張らせたい。(高3)	25	40	6	0	79.5
			学年会での各教科の取り組みの共有、生徒の学力状況・進路目標の共有と対策を検討した。(高2)	高い志望を持たせながら学力の向上を図りたい。(高2)					
			進路講演会を実施して、大学選択や職業選択の視野を広げるように努めた。また、大学や入試の変化を理解し、現段階で幅広く学習する意識を高めた。(高1)	各成績層に応じた取り組みの重視。全教科にわたる総合的学力の養成をめざすよう指導を進める。(高1)					
			教科情報の共通テスト対策については、補充授業・自習ICT教材、全国模試などの活用を行い対応した。(高2・3)	プログラミングなど、ウイークポイントを重点的に対策し、向上が見られた。引き続き、対策を進めたい。(高2・3)					
			第1回職員研修会(6月12日)には、「新教育課程大学入試」をテーマに、入試科目や総合型選抜の動向について講演を計画した。(カリキュラムデザイン係)	第2回職員研修会では、面接指導や志願理由書の添削などテーマに講演を計画する。(カリキュラムデザイン係)					
			水曜日の放課後に「CSS」を開設し、自主的な学びの場として生徒のサポートに充てた。(中学)	引き続き生徒が主体的に学習に取り組む環境づくりに注力していきたい。(中学)					
			学力推移調査(国数英)を実施し、生徒の学習状況や学力状況を把握し、面談や学習指導の拡充を行った。(中学)	結果を個人面談で生徒にフィードバックし、学習の方法や目標について共に考えていく。(中学)					
		学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	定期考査や模試分析を通して各科目の学力を把握し、生徒の指導に対処してきた。(高3)	生徒の精神面も支援しつつ、学力の伸張を図っていきたい。(高3)	19	48	5	0	78.8
			面談や模擬試験等の機会を利用しながら、志望大学・学部等を考えさせる指導・支援ができた。(高2)	修学旅行明け、11月以降スムーズに受験体制へ移行できるようにしたい。(高2)					
			定期考査の成績や春のスタディーサポート等を利用して学力や学習状況の把握を行い、個別面談等の指導に生かした。(高1・2)	指導・支援を継続していく。(高1・2)					
			学習成績や面談等を通じて生徒の実態を把握し、改善すべき点を確認した。特に、学習習慣の確立と学習時間の確保については入学当初から記録を通じて生徒個人に自覚を持たせた。(高1)	生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。また個人で異なる学習方法についても自分に最も適した学び方を発見して継続的に行う指導を続ける(高1)					
			各教科では、定期考査後に補習を設け学力定着を行うとともに、個別の相談や指導を行った。 通知表のほかに「学びの軌跡」を発行し、生徒が自分で学習の定着状況を振り返ることで自己調整しながら学習を進めていくことができるようにした。(中学)	定期考査や学力推移調査のほかに、授業内に行うチェックテストの結果を分析することで、さらに「指導の個別化」と「学習の個性化」を進めていく。(中学)					
			学力推移調査の結果分析を全職員で行い、指導の方向性を検討した。(中学)	今後も継続的に結果分析の機会を設け、指導の改善につなげていく。(中学)					
			4月に基礎学力テスト、7月に全国模試を実施して、その後の生徒面談・保護者懇談に活用した。(高1)						

次頁へつづく

評価項目		評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標
					A	B	C	D	
3	教科指導 授業改善	探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう、ICT活用のための研究を進め、教科指導の研鑽に努めることができたか。	第1回の校内ICT研修会を実施した。(6月12日) 3名の先生からロイロノート・Canva・Google Formsを使用した授業実践を共有した。また、教科横断的な学習や探究活動を推進するために、「学びのための特別公欠制度」を導入した。(カリキュラムデザイン係)	第1回の校内研修会は概ね好評をいただいた。第2回の校内ICT研修会を計画する。(11月13日) 生成AIを用いた授業実践を共有する予定である。(カリキュラムデザイン係)	28	39	5	0	81.8
4	生徒支援	個別に支援や配慮を必要とする生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	校内オンライン授業の実施にむけて、支援体制を整えた。 カウンセリング等必要な生徒への支援を継続して行った。(生徒支援係)	左記内容を継続しつつ、新たな取り組みに対してより良い仕組みづくりを検討していきたい。(生徒支援係)	34	34	3	0	83.6
			毎週の学年会で生徒情報交換の時間を確保し、各生徒の状況を学年内で共有した。(高1)						
	生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	始業式・長期休み前には交通事故の話題にふれ、ヘルメットの着用を含め伝えた。また交通立ち番を複数回実施して声掛けをした。(生徒支援係)	後期も前期同様の取り組みを行い、交通事故を無くす努力を継続する。(生徒支援係)	26	41	5	0	81.2
			保護者説明会および学年集会で、特に自転車通学時の注意事項を確認した。(高1)						
		SNSでの人権侵害、いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	始業式で話をしたり、県警の方から講演を頂いたりし、啓発活動を行った。特にSNS絡みについては強調し注意喚起を促した。(生徒支援係)	後期も、安全な学校生活となるよう、生徒支援や学年会にて情報を共有していく。(生徒支援係)	19	47	5	0	77.7
			入学前の説明会で、SNS等における人権侵害防止の指導を行った。(高1)						
	人権教育	すべての教育活動が人権教育を基盤として行われ、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりにつながったか。	9／10 職員人権研修会に一般社団法人“人間と性”教育研究協議会 代表幹事 水野哲夫先生をお招きし「子ども・若者の人権―生徒人権を考える」という演題で講演をしていただいた。(人権道徳教育係)	研修会により「命の安全教育」とは、「からだの権利教育」であることが共有でき有意義であった。(人権道徳教育係)	26	43	3	0	81.8
5	情報発信	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	学校要覧作成(4月)、第1回授業公開(5月)、中学校説明会(6月)、中学校への学校訪問(6月)、学校案内パンフレット作成(7月)、中学生体験入学(7月)、第2回授業公開(8月) HPハトニワの更新(週1程度)、屋高の窓の発行(月1程度) (広報係)	ハトニワを通じた情報発信を継続していきたい。 中学校訪問では、好意的に受け止めてもらい個別に進路講話につながる学校も出てきた。来年度以降も継続していくことが望ましい。(広報係)	30	38	4	0	82.8

次頁へつづく

評価項目		評価の観点	前期の取り組み	前期の成果と反省・後期への課題	職員評価				指標
					A	B	C	D	
全体	生徒会	質実剛健の気風を大切にして、執行部と各会員が一体となった自主活動のための指導・支援を行うことができたか。生徒一人ひとりが、生き生きとした活動をすることができたか。	6月末開催の第68回鳩祭にむけ、5月生徒総会、準備のための一斉係会2回、事後の一斉係会1回そして4月以来6回にわたる正副係長会を実施した。特に正副係長会では、鳩祭成功のための議論を深めることができた。(生徒会)	成果としてコロナ禍前の来場者数に近づき、また調理した食事を提供できた。今年度鳩祭の反省点や課題を踏まえ、新役員で第69回鳩祭に向け多面的に準備を開始した。(生徒会)	31	40	1	0	84.2
			生徒会役員を中心にクラスマッチ、鳩祭をはじめとした非日常的な行事成功のために献身的な活動ができた。また、日常的な委員会活動や生徒会員としての自覚的行動が身についている。(生徒会)	成果として会員のクラスマッチや鳩祭などの行事への積極的な参加がみられた。一方、会員意識を高め、自治組織としての生徒会活動を主体的に行えるよう支援していく必要がある。(生徒会)					
			行事運営を通じて、生徒主体の活動を補助することができた。(高2)	引継ぎが上手くいかなかった部分や、次年度への改善点も多く出てきた。マニュアルの詳細化にて対応する。(高2)					
	校内美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	限られた予算の中で、購入希望が出された清掃用具(物品)を揃えてきた。ゴミステーションには毎日職員2名，生徒2名の4名を割振り、ゴミの分別・収集(袋詰め)を行っている。(厚生係)	生徒会と連携し、引き続きワックスがけ、モップ交換を行う。また定期的に清掃用具の点検や補充並びに古紙のリサイクルを実施する。(厚生係)	22	42	6	0	77.4
			ワックスがけ(4/19)、モップ交換2回(5/31,7/12)、資源回収4回(古紙・段ボール(4/22,6/21,7/1)、コンタクト空ケース(7/18))を行った。清掃物品の補充は随時行っている。(厚生係)	11月中に、落ち葉等の外掃を重点的に行う。(厚生係)					
			清掃用具点検(清掃委員会)、清掃前の呼びかけ(手拭い、無言)。 (中学)	年度当初のきまりを全校で確認したい。(中学)					

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点になるように換算しました。　〔換算式〕 25 × (4点×Aの数＋3点×Bの数＋2点×Cの数＋1点×Dの数)÷総数

おわり